

## ケアマネジメント事例

私は結婚後発病し、離婚後50歳になるまでに入退院を繰り返し、通算12年入院しながら、二人の子供を育て、子供たちはそれぞれの家庭を築きました。3年前入院しましたが、家族も再発を恐れ、退院したいと言っても聞いてくれませんでした。

家にも帰れず住む場所も無く、あきらめかけていたら、病院の相談員から桑友を紹介されました。

- ◆入り口(アセスメント)がポイント!!
- ◆マネージャーの人間関係の広さが支援の幅を広げる!!(顔の見える関係性)
- ◆専門職種のフラットな関係がポイント

始めは1年の計画でしたが、家も決まり、結婚式することになりました。もう3年経ちましたが、二人で無理をしないで働きながら、休日には旅行をしたり、孫の子守をしています。一度彼が調子が悪くなりましたが、支援センターと病院のお陰で入院しないで乗り切ることができました。

⑥評価：二人とも計画以上の勤務状況で、当初の収支計画より上回った。女性は二人で受診し、病気に対してサポートをあっており、怠薬も無く、また結婚したいと言う二人の意志は更に強くなっていた。

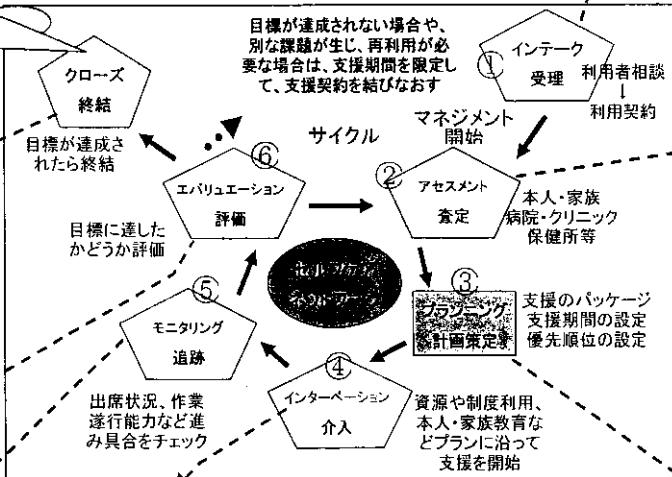
町役場の保健婦から半年後に町営住宅が空いたと連絡を受け、再度、本人・家族・病院・福祉事務所・役場・職場・支援センターで支援会議を行い、目標が達成したと確認しあった。

⑤モニタリング：出勤状況や受診状況を本人と一緒に確認し、当初支援計画と比較し、計画通り進んでいるかどうか、しんどくはないか、力は余っていないか、面接や職場訪問で確認し、女性の方は勤務時間を2時間延長した。

生活訓練施設を利用し、スタッフに彼氏と結婚し幸せな家庭を造りたいと夢を語りました。スタッフを信用できるようになりました。

しばらくして、生活訓練施設のスタッフが中心となって、病院へ出かけ夢の実現に向けて話し合いをしました。

⑦



①インテーク：複数の支援が必要な人に対して、要望をお聞きし、どのような組み合わせが考えられるのか情報を提供し、おおむねの方向性をお互い確認し、契約します。

- A 入院中の彼氏と結婚をしたい。 B 彼氏も退院させたい
- C 家族との調整を手伝って欲しい D そのために仕事をしたい。
- F 二人で住むアパートを借りたい。

②アセスメント：情報を得る前に、インテーク時に本人に何故情報を得たいのか説明し了解を得ておきました。

◆ 二人の本人の情報とニーズ(夢、目標)はインテーク時に把握女性

- 本人：50歳。就労経験あり。年金2級6万円余。作業所3万円余。6時間程度働いて、もっと収入が欲しい。
- 長男：二人目の子供が生まれるので、アパートが狭く、もう一緒に暮らせない。経済的支援も出来ない。遊びには来て欲しい。子供とも遊んで欲しい。自立できるなら結婚は反対しない。次男：近くにいないので支援が出来ない。経済的支援も難しい。
- 医師：怠薬で再発するのがパターン。結婚はリスクが高い。
- P SW：子供が出来るのが心配。作業遂行能力はある。
- 町役場：町営アパートの登録情報
- 保健所：社会適応訓練事業対象枠はある。

男性

- 本人：52歳。年金1級8万円余。院外作業所長期経験。退院時は兄夫婦が生活援助。
- 兄夫婦：入退院の繰返しで疲れた。高齢になってしまったし、もう退院しても帰ってきて欲しくない。年金生活になったので、経済的支援も出来ない。結婚は面倒を見てもらえる人なら賛成する。
- 医師：緊張が高く一般就労は厳しい。病状は落ち込んでいる。
- P SW：元来まじめ。理解のある職場でゆっくりなら働く。彼女が激しい性格なのでそれが心配。
- 福祉事務所：生活できる所得になるまでは保護できるし、住宅扶助も可能。

### ③プランニング

長期目標：再発を予防し、老後を二人で楽しく暮らす。  
中期目標：1年後に結婚し、年金と働いた収入で生活する。  
短期目標：それぞれが出来る範囲で働き収入を得る。

	女性	男性
仕事	通リハで売店：4時間	道の駅清掃：4時間
医療	2週間に1階通院	一緒に通院
住居	生活訓練施設を継続	グループホーム利用開始
余暇	休日を一緒にとる	同じ
家族	息子宅に遊びに行く	兄夫婦宅に遊びに行く